



Miri Collection 7  
The Book

·SPECIAL·  
EDITION



Miri Collection  
The Book

7  
SPECIAL  
EDITION

# Introduction

遊牧民の絨毯を原点に、手紡ぎ・草木染による伝統的な絨毯作りを行っているミーリー工房は、200年の歴史があり、現代においてペルシャ絨毯の世界にルネサンスをもたらしたと言われていました。その功績は世界的に評価され、世界の美術館・博物館に収蔵されています。196年ぶりに復活した京都・祇園祭の鷹山には、ミーリー工房とソレフィニの絨毯が胴懸として掛けられ披露されたことは大きな反響を呼びました。

ミーリー工房では羊の肩の毛だけを厳選して手で紡ぎ、羊毛糸を茜、藍、胡桃の皮、ザクロの皮、せり科の植物ジャシールなどの褪色に強い草木で染めています。絨毯の下絵は、制作地の伝統の文様をデザイナーが手で描いています。そして、織り手たちの元へ届けられます。織り手は自分たちの生活のリズムの中で、手紡ぎの羊毛糸を丁寧に一日ひと目結びあげています。ミーリー工房が制作している織の産地はかつて宮廷工房を構えていたタブリーズなどを含む約10か所。現在では、カシュガイなど遊牧民と、農村地帯のマラーイェル、ファラハンなどのエリアを中心に制作しています。

本誌でご紹介する作品「Shab」は樹に蛇が巻き付き、樹の下にはザクロと魚が織り込まれています。ペルシャ語で夜と名付けられた本作は、寓話性が感じられ絵画としての魅力がある絨毯です。「Sepanta」という作品はミーリー工房らしい、遊牧民の古典柄ともいえるべき絨毯です。庭園の池を表わすといわれるメダリオン文様が連続し、水の神の使いとされる鳥、魔除けの目や蛇、愛らしい花々、樹など遊牧民が長い歴史の中で織り込んできた文様たちで満たされています。古典柄絨毯の大作「Farnaz」は、かつて宮廷工房を構えていたタブリーズで制作された絨毯を元に、ミーリー工房が再創造した作品です。16世紀のサファヴィー朝期の繁栄の願いが込められた優雅なデザインは、ミーリー工房の傑作の一枚で、鷹山に納められた絨毯のデザインはこの様式のもので。

寒暖差が激しく乾燥したイラン高原の風土は、ペルシャ絨毯作りに欠かせない良質なウール、染料となる植物、そして大地に生きる人々の知恵や類まれな色彩感覚、創造性を育みました。自然と寄り添いながら生きる人々の思想が織り込まれたペルシャ絨毯はイランの文化そのものと言えるでしょう。





a. Pegah  
95x64cm  
Qashqai  
Wool

b. Safar  
70x81cm  
Qashqai  
Wool



Soofi  
57x102cm  
Qashqai  
Wool



*Left*  
Ghafeleh  
145×95cm  
Qashqai  
Wool

*Right*  
Sepanta  
171×108cm  
Qashqai  
Wool



*Left*  
 Kilim  
 288×101cm  
 Qashqai  
 Wool / Kilim



*Right*  
 a. K.Q.27  
 217×94cm  
 Qashqai  
 Wool / Kilim  
 b. Kilim  
 185×122cm  
 Qashqai  
 Wool / Kilim



*Left*  
Homa  
146×119cm  
Arabbaf  
Wool



*Right*  
Mohajer  
131×93cm  
Qashqai  
Wool



*Left*  
Didar  
195×130cm  
Bidjar  
Wool



*Right*  
Parham  
201×147cm  
Abadch  
Wool





Behsa  
207×170cm  
Qashqai  
Wool



Shab  
126x95cm  
Bidjar  
Wool



Shiran  
151x103cm  
Malayer  
Wool



*Left*  
Tina  
107×121cm  
Garrous  
Wool



*Right*  
Emrooz  
55×89cm  
Qashqai  
Wool



*Left*  
Samin  
203×80cm  
Malayer  
Wool

*Right*  
Sokout  
129×94cm  
Malayer  
Wool

a



b



*Left*

a. Gavazn  
63×88cm  
Qashqai  
Wool

b. Fariba  
60×93cm  
Garrous  
Wool

*Right*

Nazafarin  
65×69cm  
Farahan  
Wool





K.Q.177  
239×172cm  
Qashqai  
Wool / Kilim



*Left*  
Shahd  
210×146cm  
Farahan  
Wool



*Right*  
Lad  
178×120cm  
Abadch  
Wool



Farnaz  
354×192cm  
Tabriz  
Wool





ミリー工房  
蟹柄絨毯 ファールス州カシユガイ族

本作の意匠は水の神アナヒタのシンボルの一つである蟹柄の連続模様。乾燥した地域に生きる人々にとって、水は命の源です。蟹柄の中心にはバルメット文様が織り込まれています。ポーターには聖なる蓮の花が展開しています。蓮の花は千年に一度生まれる聖者の種を内包していると古代の人々は信じていました。

研究者によって文様の解析は今も続けられ、新しい解釈が生まれています。古代からの文様であればあるほど断定することは難しく、四肢文様に分類される蟹柄も、そのような文様の一つと言えるでしょう。確かなことは、古の人々が伝承してきた文様には、人々の憧れや願い、世界観が昇華しているということです。洗練された文様、茜色と藍の草木染の深さも美しい作品です。



ソレマニエ・フィニ工房  
植物文様絨毯 カーシャーン

この絨毯は十六世紀のカーシャーンの宮廷工房で制作された絨毯を元に、下絵を新たに描き起こしソレフィニが現代に蘇らせた古典絨毯です。絨毯全体には、聖なる蓮の花や、当時の王シャール・アッバースが繁栄のシンボルとして愛した花瓶柄とバルメット文様が織り込まれています。この様式は王の名にちなみ、シャール・アッバースイとも呼ばれます。

バルメットはメソポタミアで聖なる木とされてきたナツメヤシが文様の起源とされ、バルメットでは子孫繁栄の柘榴と融合した文様になりました。

王の手厚い擁護により、文化芸術が花開いた十六〜十七世紀サファヴィー王朝時代は、ベルシャ絨毯の黄金期でもありました。本作は当時と同じ草木や手紡ぎウールを使い、高い技術で制作された傑作です。



### Azerbaijan / Moghan

アゼルバイジャン モガン

アゼルバイジャン地方モガン平原を拠点とするシャーサヴァン族はマフラシュ(海綿袋)、ホルジン(ロバの骨にかかる物入れ)など生活器具にスマック織を用いてきました。この織は耐久性だけでなく、多様性に富んだ美しい文様の特徴です。夏草織は座織りの刷をスマック織の技法で17世紀の王家工場のデザインを模倣に織り上げた織物です。真珠織は120年もの歴史あり、虹の織と伝えられていました。結びの玉が文様を盛り出し、使い込むと真珠のように輝きが増すこと由来した名前です。

### Turkmen

トルクメン

トルクメンとは、イラン北東部を拠点とするトルコ系部族の集合体です。ソレフィニでは、多様で色彩豊かな、現代ではあまり見ることがない文様を織らせています。

### Tabriz / Heriz

タブリーズ ヘリーズ

かつて宮廷工房を構えていたタブリーズは古典絨毯の名品を数多く制作して来た産地です。ヘリーズは大膽な折線で表現された文様が特徴です。ソレフィニでは手紡羊毛による宮廷工房の古典作品を織らせています。また、草木染めを施した座織りの刷を用い、卓技した刷の良い織り手が制作したシルク絨毯は、味わい深く美しいに染められています。

### Bidjar / Garrous

ビジャール ガールカス

ザグロス山脈に位置するこの地方では、上質な羊毛が採れます。クルド人やアフシャール族が多く住む地域で、19世紀中頃までのこの周辺で織られた絨毯は、ガールカス産と呼ばれてきました。古代信仰に基づくアニミズム的な文様が特徴です。

### Farahan

ファラハン

モーリー工房がファラハンで織る絨毯は、19世紀末、欧米に多数輸出された植物文様の絨毯の産地を築いています。結びやかに表現された木々や草花が、美しいリズムを奏でています。

### Malayer

マラーイェル

道教民のロリ族が定住したこの地域の絨毯は、トライバルの抽象絵画のような自由さと、村や町の影響を受けた華麗な文様などが融合し、多様性に富んでいます。オフトバフと呼ばれるしなやかな織は、モーリー工房のマラーイェル絨毯の特徴です。

### Kashan

カーシャーン

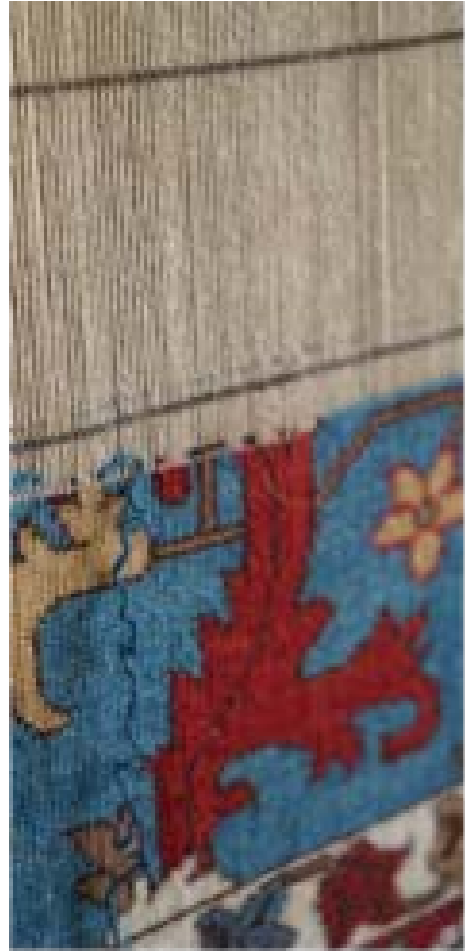
オアシス都市であるカーシャーンでは、サファヴィー朝時代に宮廷工房で数多くの名作絨毯が生まれました。それらの絨毯は、世界の博物館・美術館に収蔵されています。ソレマニエ・フィニエの出身地でもあります。ソレフィニでは、この地域特有の葡萄の葉やコナニールを染料として用いています。

### Qashqai / Khamseh (Arabbaf) / Abadeh

カシュガイ ハムセ(アラバフ) アバデ

カシュガイなどの遊牧民が暮らしを営んでいる地域がフェールズ州です。厳しくも豊かな山岳地帯の風土は、絨毯作りには欠かせない上質なウールを育みます。ライオン、山羊、ラクダ、犬、鳥など動物たちがいっさいと織り込まれた絨毯には、自然とともに生活する遊牧民ならではの味わい深さがあります。

**草木染め絨毯の産地**  
 イラン・トルクメンは山岳や乾燥地帯など、伝統に富み、歴史の中で種々なる人々の交流がありました。多民族の文化が融合し、織の多様性が生まれました。  
 この産地では、モーリー工房とソレフィニが制作している織の産地が北西部、中部、北東部、南部と広い地域にわたっているのがわかります。



【制作】

千代田トレーディング株式会社  
東京都港区白金台 5-3-7 くりはらビル 101  
Tel 03 3440 9391

www.miricollection.com © miri\_collection  
www.sfini.com © soleyfini

【家具提供】

象鯨彫刻家具

【撮影協力】

シルクラブ 中野山田屋



Cushions  
約40×40cm  
Turkmen  
Wool

Arajan  
143×98cm  
Turkmen  
Wool

Mani  
149×122cm  
Turkmen  
Wool



Sarafraz / 149x92cm / Turkmen / Wool

Jeyran / 92x73cm / Turkmen / Wool



Sadab / 56x80cm / Turkmen / Wool



Sarafraz / 135x82cm / Turkmen / Wool



Maglis / 68x110cm / Turkmen / Wool



Ayna / 130x120cm / Turkmen / Wool /



Akgyz / 118x88cm / Turkmen / Wool



TRM  
Ersari  
Tehke  
Beshir  
Yomut  
KFN



Jeyran / 93x70cm / Turkmen / Wool



Hana  
231×146cm  
Kashan  
Wool



Bol Bol  
383×83cm  
Kashan  
Wool



Nila / 170x115cm / Kashan / Wool



Mouje Darya / 260x150cm / Kashan / Wool

# Kashan



Kimiya  
328x219cm  
Kashan  
Wool





Darya  
230x200cm  
Azerbaijan  
Wool / 真珠織



a. Ara  
210x158cm  
Azerbaijan  
Wool / Sumak



b. Malan  
219x137cm  
Azerbaijan  
Wool / 真珠織



a. Ata  
210×158cm  
Azerbaijan  
Wool / Sumak

b. Malan  
219×137cm  
Azerbaijan  
Wool / 真珠織

c. Elay  
205×129cm  
Azerbaijan  
Wool / 真珠織



Sanaz  
221x124cm  
Azerbaijan  
Wool / 真珠織



Kava / 168x107cm / Azerbaijan / Wool



*Left* Yasan / 185×130cm / Azerbaijan / Wool / 真珠織  
*Right* Ronas / 187×121cm / Azerbaijan / Silk / Sumak

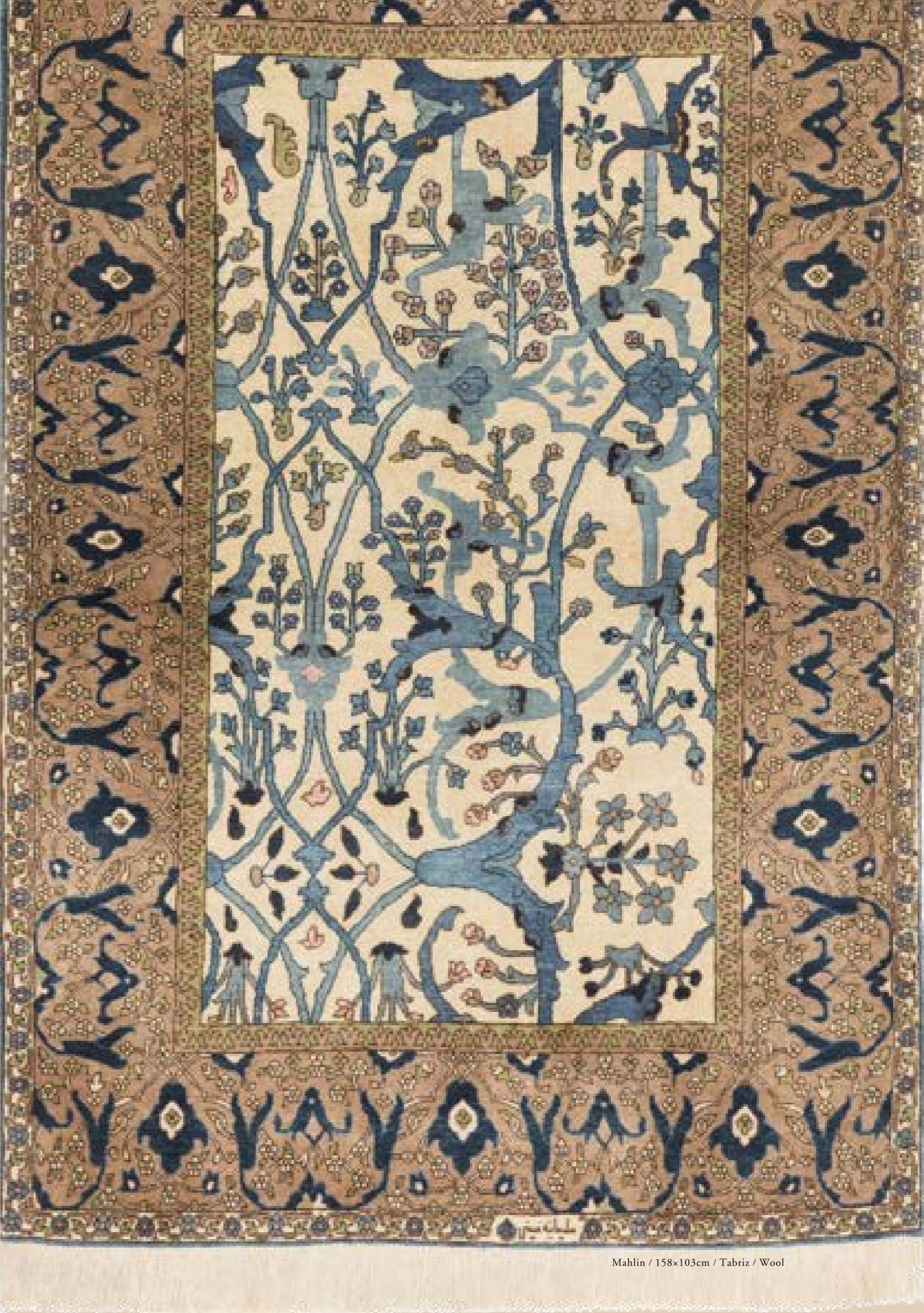




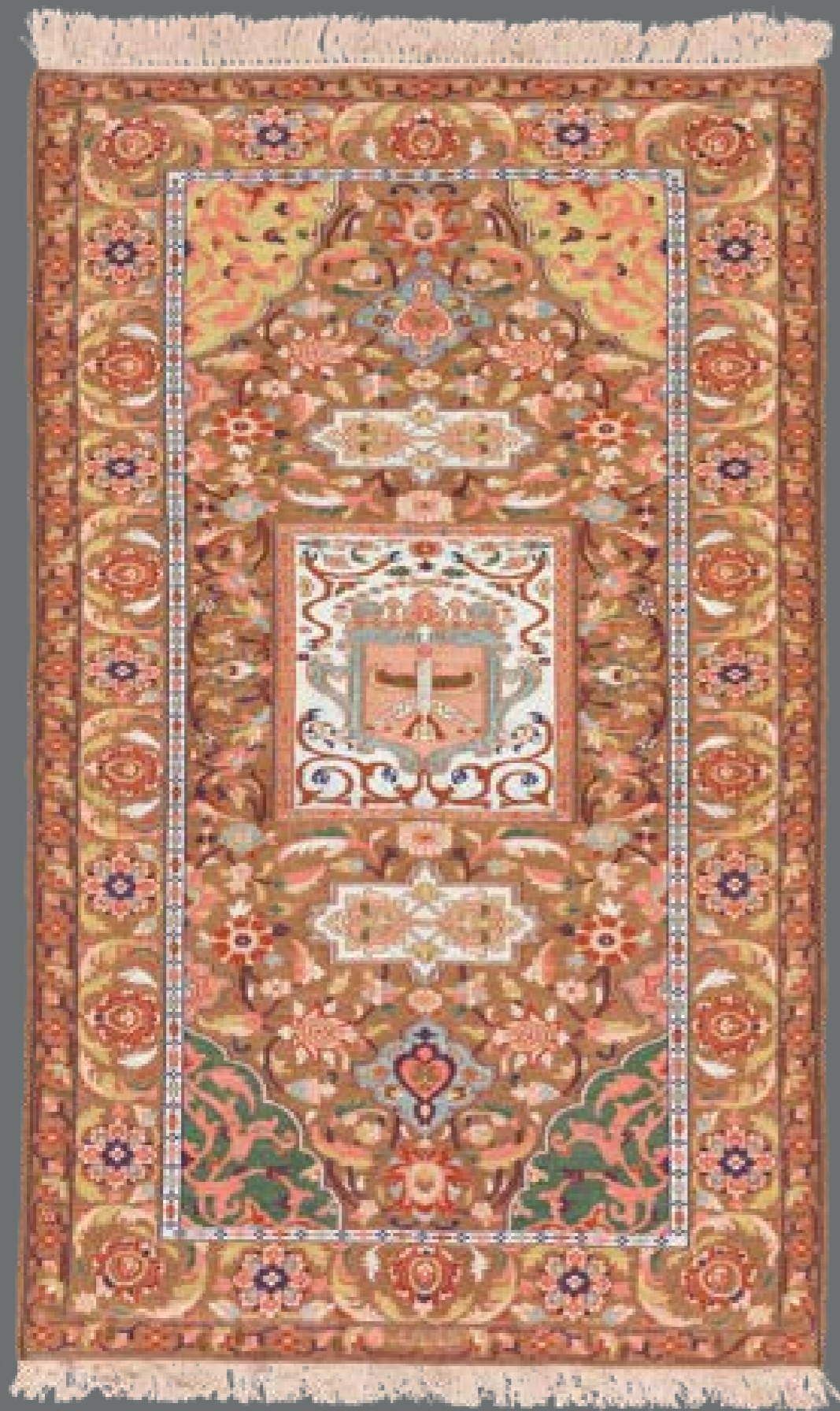
Doshan  
67x100cm  
Tabriz  
Wool



Bakhish  
81x115cm  
Heriz  
Wool



Mahlin / 158x103cm / Tabriz / Wool



Oghab / 115×72cm / Azerbaijan / Silk / 蔓草織





*Left* Gol fam / 127×91cm / Azerbaijan / Silk / 蔓草織

*Right* Bektash / 130×92cm / Azerbaijan / Silk / 蔓草織







*Left* Banafsheh / 141×79cm / Azerbaijan / Silk / 蔓草織

*Right* Say gol / 152×82cm / Azerbaijan / Silk / 蔓草織



Azerbaijan  
蔓草織

## 蔓草織（つるくさおり）の記

カーシャーンの王室工房時代の絨毯を蘇らせ、アゼルバイジャン地方の真珠織を現代で唯一制作するソレマニエ・フィニイ工房が、ペルシャ絨毯の歴史に新たなページを刻むことになった。

縦糸に模様糸を巻き付けながら1cmに100ノットという細かさでアラベスク文様を織りあげるこの織物を蔓草織（つるくさおり）と名付けた。かつてヨーロッパ王室貴族が愛したペルシャ絨毯の様式が、時代を経て新たな命を吹き込まれたのである。どのようにして蔓草織が生まれるに至ったか、歴史を紐解いてみようと思う。

ポーランド王室が多数所蔵していた、淡い色合いのペルシャ絨毯を総称して“ポロネーズ絨毯”という。織られたのは十七世紀サファヴィー朝ペルシャの王室工房。文化と文化が交錯するところには必ず橋渡しをする者がいる。当時ペルシャとヨーロッパの仲介をしていたのが、アルメニア商人達であった。

彼らはヨーロッパ王室貴族の趣向に合うローコントラストで繊細な“ポロネーズ絨毯”をヨーロッパ各地方に輸出していた。また、サファヴィー朝の王は外交のためヨーロッパ各地の王達への献上品とした。

これらの絨毯に共通するのは、地の部分はパイル織ではなく糸の側面が見える平織りか、スマック織の様な独特な技法であること。また、模様はペルシャらしい蔓草文様でありながら、濃紺や赤といったペルシャ絨毯のトレードマークともいえる色が殆ど使われていないことである。

一部のカスピ海沿岸地域を除けば、ペルシャ（イラン）は黄土色の山々が聳え立っている乾燥地帯である。この風土だからこそ、赤と濃紺がベースで水や花々を想像させるカラフルな色合いの絨毯を人々は必要としていた。一方、ヨーロッパの森林地帯で生きる人々は絨毯に強いコントラストを求めなかった。

古くからペルシャとヨーロッパをまたにかけて貿易していたアルメニア商人達は、風土からくる文化や好みの違いを熟知していたのである。

日本とイラン両方にバックグラウンドをもち、両国の染織文化に係わってきたソレマニエ・フィニイ家（工房）はかつてのアルメニア商人のように、二つの文化の架け橋としての役割を果たしている。と自負している。

今回披露する蔓草織は、ポロネーズ様式の意匠を繊細な織で表現している。カスピ海沿岸の座繰りの絹、自然から採られた草木の淡い色と優美な草花の文様は、日本の風土によく似合う。細かな手仕事の文化を愛する日本人ののために織られたといっても過言ではない、この精緻な蔓草織をご堪能あれ。

千代田トレーディング株式会社

代表 ソレマニエ・フィニイアミール



*Soleymanieh Fiii*

· SPECIAL ·  
EDITION





# Special Edition of Juw

· SPECIAL ·

EDITION